

都議会第1回定例会代表質問 2月26日

和泉なおみ都議がおこないます

都議会第一回定例会が2月19日
日から3月27日まで開会されます。
2020年度の予算が審議され、小池都政の4年間を総括する議会となります。
和泉なおみ都議が幹事長と

なつて最初の都議会です。26日の本会議代表質問に立ちます。都議会での傍聴にお出でください。また、インターネット配信もおこなわれます。ぜひ、ご覧ください。

新型コロナウイルスで明らか 都立・公社病院を縮小させない

新型コロナウイルスで国の公的病院の大きさが明らかに。そのために6億円を超える準備予算をくんでいきます。これでは、都民の命と健康をまもることは出来ません。立病院・公社病院は素早く感染者を受け入れました。しかし小池知事は都立病院・公社病院の独立行政法人化(独法化)をすすめ、ベツト数の削減、災害医療の縮小こそできたことです。改めて、などをしようとしています。を求めていきます。

東部低地帯の水害対策 逃げないですむ町づくりを

昨年の台風19号の結果から、東京東部地域の水害対策は、喫緊の課題になっています。とや、雨水を一時完成まで何百年もかかるスーパー堤防や、貯水する能力をたかめることなどの減災対策を一度に大勢の区民が、区外に避難する計画は、もとめます。あまり現実的ではありません。現在の堤防を強化して、越水しても破堤し



都水門管理センターで話を聞く

ゆがみを質し 都民本位の予算へ

小池知事は「高齢者がいくつになっても生き生きと活躍」と言っていますが、特養ホームをはじめとした施設整備の予算は軒並み減額です。その一方で、羽田新飛行ルートや、道路の建設など、住民が反対しているも聞く耳を持ちません。

添う姿勢が見えない予算です。厳しく指摘していきます。

○兆円にも上る財源をもつ東京都予算です。そのほんの一部を変えるだけでも、都民生活に大いに役立ちます。

演劇関係者の声を直接聞いて

——旧子どもの城について——

日本共産党都議団は、旧子どもの城の青山劇場と青山円形劇場の改修に当たって、劇場関係者、教育関係者から直接意見を聞く機会を持つことを求めて小池と知事宛に申し入れを行いました。

都は、これらの劇場を「多目的ホーム」に改修しようとしています。小泉今日子さんや小栗旬さんをはじめとした多くの演劇人モ「スペックダウンなく活用」することを求める声明を出しています。

都民のくらしに寄り

日本共産党都議団は、修正案を提出して、その実現のために奮闘していきます。

申し入れをする和泉都議(右)



2つのゼロ円条例と「雇用審」条例

子ども均等割

私立高校
入学金

和泉なおみ都議が発表報告



第一回都議会定例会に日本共産党都議団が提出する条例案について、和泉なおみ都議が記者会見で報告しました。(2/10)

都議団が提案する条例は、所得のない子どもたちの保険料をゼロにした区市町村にその分を全額都が補助するものです。

2 私立高校の入学金 ゼロ円条例

授業料の無償化は進んでいます。都民の運動と、共産党都議団が繰り返し要求してきた対象の拡充も実現し、760万円だった年収の上限が910万円まで広がりました。しかし、入学金は補助されません。低所得の世帯の入学金を実質ゼロにする条例です。

3 雇用・就業対策審議会 条例改正案

この審議会は、「雇用及び就業の促進、職業能力の開発並びに労使関係の安定を図るため、知事の付属機関」(第一条)として設置されていますが、7年間も開かれず、委員の委嘱もされていません。ソーシャルファーム条例などを検討したのは知事が設置した有識者会議です。条例に基づかない「有識者会議」を付属機関のように扱うのは違法という判例もあります。

都議団提案の条例改正案は、この審議

1 国保の子ども均等割 保険料ゼロ円条例

所得のない子どもにまで保険料がかかるのは、まるで人頭税のようです。月当たりの所得が19万円の世帯に、一カ月当たり約3万6千円の保険料を課しているのですから、払えない人が増えるのは当然です。サラリーマンが加入する協会健康保険は、扶養家族の数に応じて保険料が上がることがありません。

高すぎる国保料

(葛飾区の試算)

所得(旧但し書き) 228万円の家庭
夫41歳 妻38歳 子ども12歳
保険料 所得割 258,552円
均等割 172,200円
(このうち子ども均等割 52,200円)

合計 430,752円

会を年一回以上開催することなど、権限の拡充などを盛り込んだもの

日本共産党都議会議員・和泉なおみの
生活・年金・法律相談

3月12日(水)午後2時より

事前にお電話ください
於・和泉なおみ事務所

東京のまちをウロウロする楽しさ

和泉なおみ

議員として自慢できることはありませんが、実は人見知りです。でも、都議になって、請願・陳情や再開発の質疑のために現場に足を運び、地元の方に話を伺うことも多く、ちょっと変わってきました。

阿佐ヶ谷では、通称蛇神社といわれる

小さな弁天社で、高齢のご婦人に地域の歴史や、古い建物の由来、ご自分のくらしの話などを聞き、商店の方から地域の変化や再開発のやり方へのあきらめにも似た怒りを聞きました。

内神田の再開発では、江戸時代の鎌倉河岸と言われた河岸の遺構や、戦争中の

米軍の機銃掃射の後、神田橋ジャンクションの下に明らかに現代のものではない古い石積みを見。

東京ウロウロ歩きはとても楽しい。こうして歩いていると、そこに暮らしの人たちがつくってきたまちの姿と、そこで今を生きる人たちに、愛しい気持ちがふつふつとわいてきます。

それが何より委員会や審議会での力になります。人見知りも治るかもしれません。